

NPO 塾全協東日本ブロック主催

第 2 回英語合宿 レポート

日時 2014 年 8 月 14 日（木）8 時 30 分東京出発～8 月 16 日 16 時ころ東京着

場所 ブリッティッシュ・ヒルズ 福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草 1-8

参加者 生徒 22 名（男子 5 名、女子 17 名）、引率 3 名（沼田、中村、中山（由紀））

文と写真 NPO 塾全協全国事務局長・東日本ブロック広報局長 中村基和（むさし野ゼミナール）

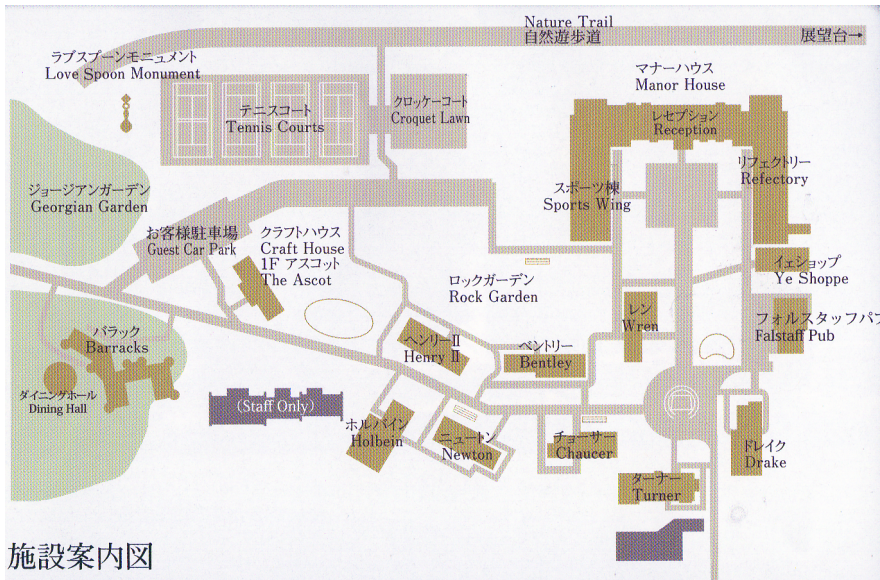


《1 日目》 8 月 14 日午前 8 時 30 分に有楽町のバスターミナルに集合。私の塾の生徒は中 3 女子 2 名、高 1 女子 3 名と女子ばかりで、全体でも男子が 5 名に対して女子が 17 名と圧倒的に女子が多い編成でした。5 時間のバスの旅。車酔いする生徒が出るのが心配でしたが、幸い往路は 1 人も車酔いが出ませんでした。

バスの中ではブリッティッシュヒルズに入ったときのための事前注意と説明。そして英語での簡単な自己紹介の練習をしました。

13 時頃バスがマナーハウス（城状のメインの建物）の前に止まると外国人講師と日本人スタッフが出迎えて来ました。数人の女生徒がバスから降りるとすぐさま外国人講師を取り囲みました。恐らく前回も来た子たちでしょう。何か最初から微笑ましく良い雰囲気だなと思いました。ここの敷地面積は 73,000 坪（甲子園球場のグラウンド面積の 16 倍！）そこに伝統的な英国風の建物が 20 棟くらい建てられています。日本人スタッフもいますが、公用語は英語。円をポンド紙幣に換えてくれます。と言っても「なーんちゃってポンド紙幣」、言い換えれば「子供銀行券」ですが、ここでは通用します。

まずはマナーハウスでオリエンテーション。日本人スタッフと沼田先生の説明のあと Brett さんが英語で説明。バイキングで食べられない量までとって捨てるのは良くないという注意もありました。そして生徒の名を 2,3 人ずつ呼びながらチェックイン。生徒達が緊張するかと思っていたら意外とそうでもなく微笑みも多く見受けられました。そのあと英語で自己紹介。そして各自の宿泊部屋に行き、16 時まで一休みしてから最初のレッスン。レッスンは A グループ（中高生）と B グループ（小学生）に分けて行われました。生徒達は英語のジャンケン“Rock, scissors, paper”を覚えて楽しそうにはしゃいでいました。



施設案内図

18 時からはレフレクトリーで初めての食事。ブリティッシュヒルズの売りのひとつだと思いますが、ハリーポッターさんながらの屋根の屋根の高い体育館のような大食堂。日本では勿論、イギリスに行ってもこのような場所で食事をするチャンスがあるかどうか.....出来ることならコース料理といきたいところですが、費用の関



で無理ですので、バイキング料理となりました。まさにバイキング！なんて言ったら怒られるかな？料理の種類はとても多く、好きな物を食べられる量だけ選べるので生徒達は満足していたようでした。塾団体のイベントの懇親会での料理と同じような物と考えて良いのではないのでしょうか。もっと良いかもしれません。ただし日本食は当然ありません。

夕食後は自由時間。20 時には各自の部屋に入り 23 時に消灯させました。中山先生は生徒達が全員の部屋に戻っているかを確認してくれました。今回は女子だけにしている棟に男子学生が 2 人入って来たとか、1 部屋鍵が壊れているという報告もあり、ヒヤッとしましたが、スタッフに問い合わせられて解決しました。男子学生というのは以前も来たことがある学生で、そのときその棟にあった洗濯機を使いに来たそうでした。鍵は何かかけられましたが、壊れていたようで翌日職人さんを読んでなおして貰いました。幸い事なきを得ましたがやはり何か起こるものです。Accidents will happen.

この日の夜の自由時間、私は自分の塾の高校生 3 人 (2 人は外部生ですが) を部屋にこさせてコーラスの練習をしました。6 月の視察会のレポートの最後にも書いたのですが、帰る前にスコットランド民謡の Auld Lang Syne (蛍の光) 生徒と歌ってみたいと考えていました。生徒達にやってくれるかと訊いたところ快く承諾してくれましたので、まずは 1 回うちの塾で練習してみました。女声 3 部合唱でコーラス符を書いてみたのですがアルトのパートの音が上手くとれそうもなかったのが混声 3 部に書き換え、私が一番下のパートを歌う混声 3 部に書きかえて現地で練習しなおしました。翌日ももう一度集まって練習しましたが、上手くハモれるかどうか非常に心配でした。なんせ楽譜を書いた本人が時々音はずしたくらいでしたから。(汗)

《2日目》 7時に朝食なので6時に起床。9時から10時30分までレッスン。グループAはCulture and Manners、BはGymでBritish Sports。グループAでは講師が色々尋ねているのに生徒達はうつむいてダンマリ。十分想像しうる光景ですが、講師の方はキレ気味で、“Are you crazy?”、“Are you zombies?”それでも生徒達は後半は何とか答えられるようになり、笑い声も出ました。講師のChrisさんは“religion”とうい言葉を生徒の口から出させたかったのですが、中学生には無理。高校生も高1ばかりだったので誰も答えられませんでした。しかし、これを機会に覚えて貰いたい単語です。あと「Zombieと言ったのは、しゃべらないという意味だよ」と後で生徒達に言ったら、やっと意味が分かったみたいでした。一方グループBは体育館でクリケット。野球の原型となったスポーツとも聞いた事がありますが、実際この目で見たのは生まれて初めて。沼田先生も初めてだと言っていました。生徒達はとても楽しそうで、何言ってるのか分からなくてもやり方分かっちゃうのしょうね。スポーツに国境なし。



14時からグループAはTalk about Yourself、BはPop-up cards。グループAのTalk about Yourself、の講師はRandyさん。カリブ諸国共同体出身だけど自分はpirateではないと言ってまずは受けました。話も面白く個性的な風体で生徒達の間では一番人気だったようです。グループBは絵の飛び出す絵本のようなものを作っていました、これは面白い！クラフト好きの私は思わずやってみたくなりました。説明は勿論英語ですが、やはり何となくわかっちゃうみたいでした。ここが肝心なのかもしれません。



16時から17時30分までは Own meeting & Manner House Tour の時間で、まずは沼田先生の案内・解説でマナーハウスの見学をしました。ここは貴重な家具、装飾品、書籍の宝庫です。よほどの金持ちでないとこれ程揃えることは出来ないでしょう。中でも最も生徒達の興味を引いたのが「王様、女王様」のベッド。この部屋に泊まることも出来ますが、1泊30万円！



マナーハウス見学の後は沼田先生と私でイギリスの歴史と文化に関する簡単な講義をしました。まずは私がイギリスの古代から宗教改革までの歴史、その後沼田先生が清教徒革命と名誉革命、産業革命に関する話を話し、最後に私がイギリスの文化として、シェイクスピア、ニュートン、ダーウィンそしてビートルズに関する話をしました。



2日目の午前中はレッスンのあと Nature Trail（自然遊歩道）を頂上の展望台まで歩きました。実はこの3日間、雨は帰りのバスに乗るまで降りませんでしたが、天気恵まれず、海拔1000メートルの所なので霧というより雲の中にいる状態で、天気が良ければ絶景が展望出来たはずなのですが、雲しか見えませんでした。ブリティッシュヒルズ敷地内も10メートル先は真っ白な状態で夜は恐怖を感じるくらいでした。しかし物は考えようで、こんな経験は滅多に出来ない。天空の城ラピュタかマチュピチュにいるような気分を味わおうと思いました。

《3日目》朝食後は最後のレッスンでAグループはスコーン作り、Bグループはショートブレッド作り。そのあとはマナーハウスで閉会式。まずは沼田先生が英語で挨拶。そのあとランディーさんがあいさつ。そして商品授与。スタッフに英語で話しかける度にサインを貰え、サインの数が多い上位3人に商品が授与されるという一種のスタンプラリーで、1位は小6生で39でした。一般的に上の学年の方が少ない傾向がありました。この辺りにも日本人が英会話を苦手とする理由の一つが見られるのではないのでしょうか。さて、そのあと私たちの出番です。4人で蛍の光の原語版を3部合唱で歌いました。何とかこなせたというところでしたが、残念なことにビデオのハードディスクがいっぱい録画出来ませんでした。でも、私たち担当のスタッフの橋本さんに、この歌が元々イギリスの民謡で、歌詞も日本語版とは全く異なるということを知らない人が多い。こういう試みは画期的だと褒めていただいて非常に嬉しく思いました。



「雲」の中の集合写真。カメラの操作ミスではありません。

今回の英語合宿はNPO 塾全協としては実質的に初めてのものでした。時期、費用、グループの分け方、レッスンの難易度など今後色々検討するべきことがあります。聞いた限り皆良かったと喜んでいました。この合宿が英語学習のモチベーションアップになってくれることを切に願っています。最後に団長の沼田先生、引率の中山先生、本当にご苦労様でした。

異文化生活を終えて

K. 小川 (高1)

私は八月中旬、とある英国の門をくぐった。周りに広がるのは大自然が生み出した創造物、そして大きな石造りの建物だった。

福島山の奥地にある英語のテーマパークともいえる場所。それがブリティッシュ・ヒルズである。

バスから降りたつと、そこには、とても自分の祖国だとは思えないほどの風景が広がっていた。見慣れない石畳の上を、場違いのようなスニーカーで踏みしめながら、私は、壮大なシンボル、マナーハウスへと足を踏み入れた。

そこから始まった初めての英国生活。

自分の部屋は素晴らしかった。扉の鍵は古い代物で、開けるのに少し苦労したけれども。

授業という。学校の英会話とは全く違った雰囲気、とても楽しかった。私は、英語の成績は良くない。しかし、私は英語が好きである。先生との会話は、勿論全て英語。私は積極的に話してみた。すると、思ったより会話がはずんだ。外国の方と話すということは、難しいことのように思えたが、そんなことはなかった。

どこか謙虚な日本人とは違い、外国人は色んなことをグイグイと話してくれる。私はそれが凄く嬉しかった。

異文化交流を終えた今、私は忙しい日々を追われている。しかし少し立ち止まって、考えてみようと思う。自分の住んでいるこの日本という国ではない所を。英語という、素晴らしい言葉を学んでいることを。そして、きっと、色々な世界に目を向けられるようになれると思う。

そして私はそのような人になりたい。そして、わたしは忘れない。大事な事を教えてくれたあの場所と、そこにいるステキな人たちのことを。

Thank you, everyone.



↑ 初日のオリエンテーション



↑ Good bye.

《FACE BOOK (8/17) より》

NPO塾全協東日本ブロック理事長 沼田広義

昨夜、ブリティッシュ・ヒルズにおける3日間の24時間英語合宿から無事帰ってきました。

英語のスピーチは開講式では何度かつまずきながらでしたが、修了式ではつまずかずに何とかこなすことができました。

ネイティブの先生方とも簡単な会話を楽しめました。短いセンテンスの会話ばかりでしたが、3月の合宿の時よりは積極的に話せるようになった気がします。

リスニングはゆっくり話してくれるとかなり聞き取れるようになりましたが、普通に話されるとまだまだわかりません。これからも頑張りたいと思います。

しかし、こうした経験を積んでくるとやる気が確かに出てきます。塾生たちもまだ帰りたくないというほど満足していました。英語学習へのモチベーションが高まったのは間違いのないようです。

修了式では「ほたるのひかり」を皆で英語で歌いました。中村先生がギターで伴奏してくれました。大成功でした。このような試みをしたグループは初めてだそうです。

私はオロオロしているだけの存在でしたが、写真とビデオも担当してくれた中村先生をはじめ御協力いただいたNPO塾全協の先生方、そして素晴らしい授業と英語環境を提供してくれたブリティッシュ・ヒルズの先生方やスタッフの皆様のおかげで有意義な合宿となりました。本当にありがとうございました。

また、ご参加いただいた各塾の生徒のみなさん、そして保護者の皆様、本当にありがとうございました。心から感謝致します。

